

第1節 人口と世帯の状況

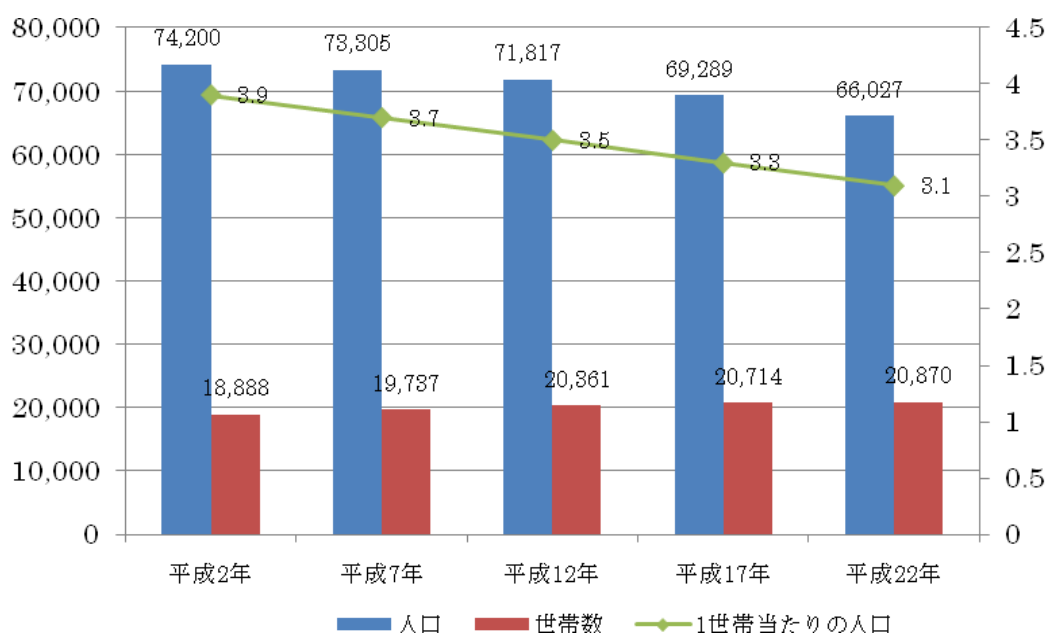
伊達市における過去20年間の人口の推移については、平成2年には74,200人でしたが、平成22年には66,027人に減少しており、減少率は11.0%にもなりません。また、5箇年の減少の割合も、平成2年～平成7年の1.2%に対して、平成17年～平成22年は4.7%へと拡大し、人口減少が進行しています。

地域別にみると、伊達地域がなだらかに増加、保原地域がほぼ横這いですが、梁川地域、霊山地域、月舘地域の3地域は人口減少が続いており、福島市のベッドタウン化が進む地域と、人口流出が進む中山間地域に2分されている状況がわかります。

総世帯数は平成2年の18,888世帯から平成22年には20,870世帯に増加している一方で、1世帯あたりの人員が平成2年の3.9人から平成22年には3.1人に減少しているおり、核家族化の進行と夫婦のみの世帯や一人暮らし世帯が増加していることが推測できます。

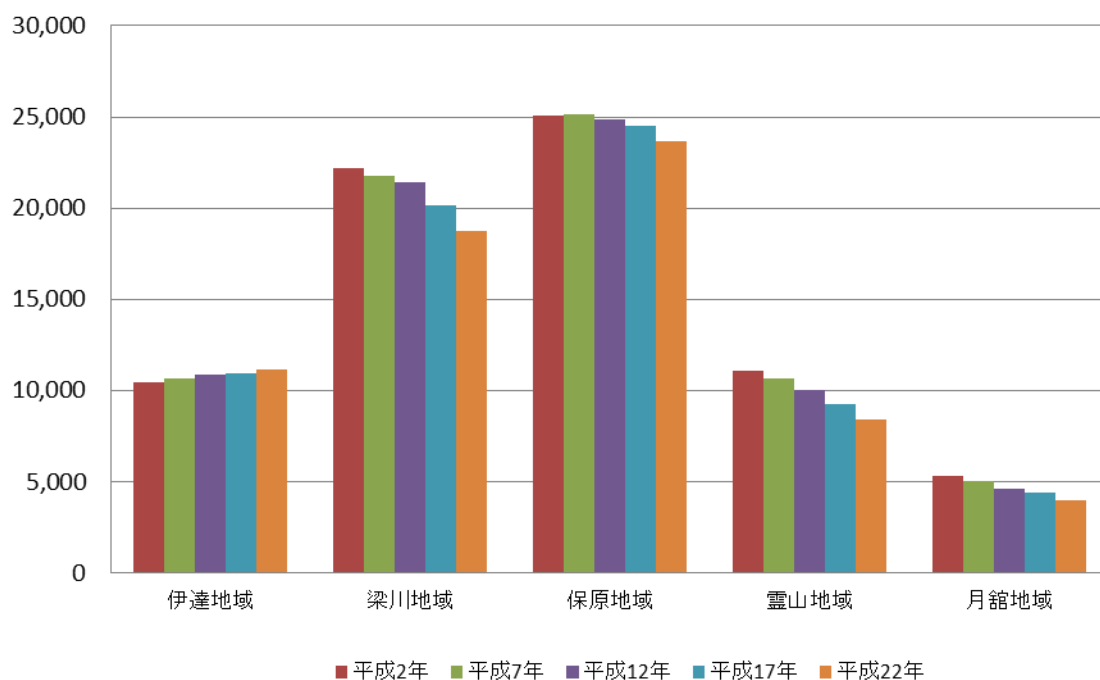
また、人口推計からは、総人口と64歳未満の人口が大きく減少するのに対して、前期高齢者、後期高齢者ともに人口が増加し、一層の高齢化の進行が予想されます。

【総人口と総世帯数及び1世帯当たりの人員の推移】



(国勢調査：各年10月1日現在)

【地域別人口の推移】



(国勢調査：各年 10 月 1 日現在)

【人口推計】

区分	推計値		
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 28 年度
40 歳未満	24,975	24,246	21,328
40～64 歳	22,929	22,468	20,625
65 歳以上	18,479	18,819	20,182
前期高齢者	8,133	8,415	9,546
後期高齢者	10,346	10,404	10,636
総人口	66,383	65,533	62,135
高齢化率 (%)	27.84	28.72	32.48

(平成 23 年度策定の伊達市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より)
 前期高齢者：65～74 歳
 後期高齢者：75 歳以上

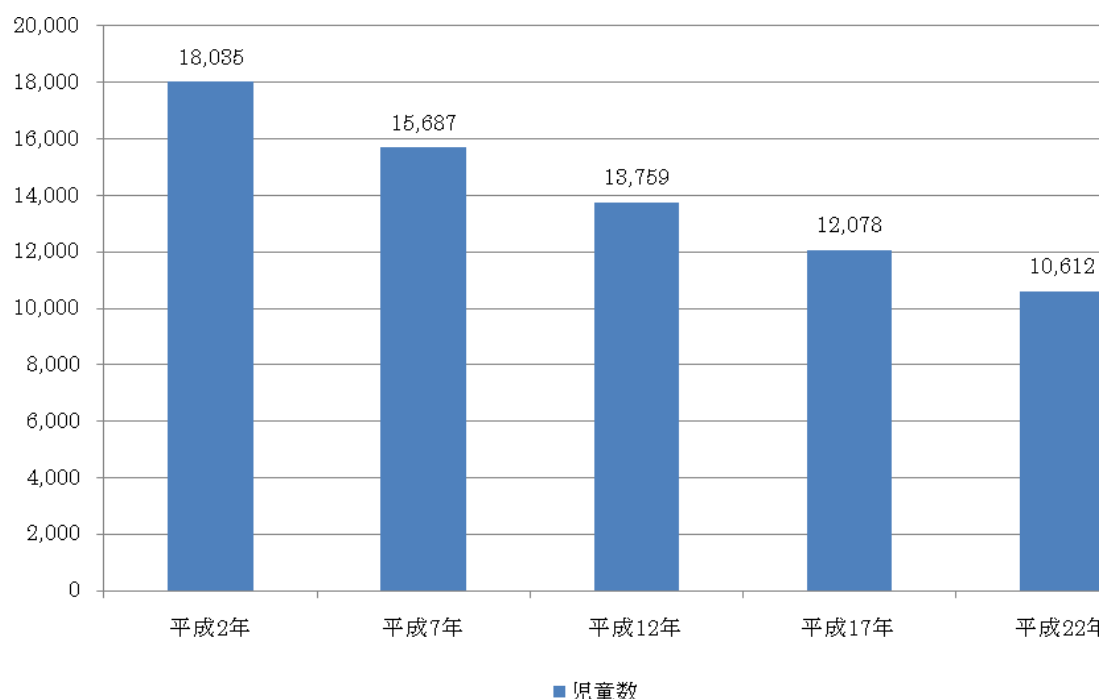
第2節 子育て家庭の状況

伊達市における過去20年間の18歳未満の人口の推移については、平成2年には18,035人でしたが、平成22年には10,612人に減少し、減少率は41.2%にもなります。この間の総人口の減少率11.0%に比較して3倍以上の減少率であり、少子化が急速な勢いで進んでいます。

地域別の乳幼児・児童人口の推移については、伊達地域を除く4地域において全ての年齢層で人口減少が継続しており、特に0歳～5歳の乳幼児の年齢層については、梁川地域、霊山地域及び月舘地域における乳幼児人口がほぼ半減しており、極端な減少傾向にあります。

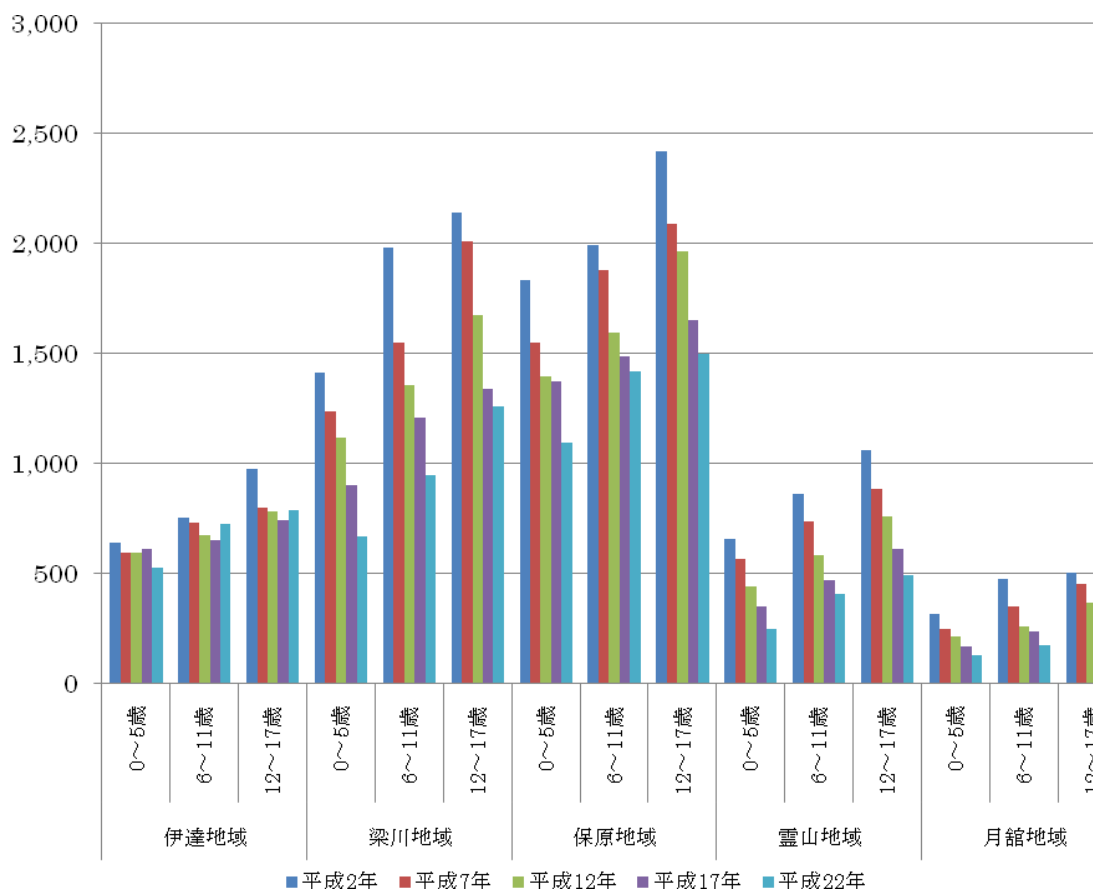
また、6歳未満の子どもがいる世帯の推移については、平成2年には43.8%を占めていた三世帯世帯の数が平成22年には22.6%に激減しており、一方で核家族世帯の数は平成2年の32.5%が平成22年には54.5%に激増し半数以上を占めており、伊達市においても核家族化が著しく進行しています。

【児童数の推移】



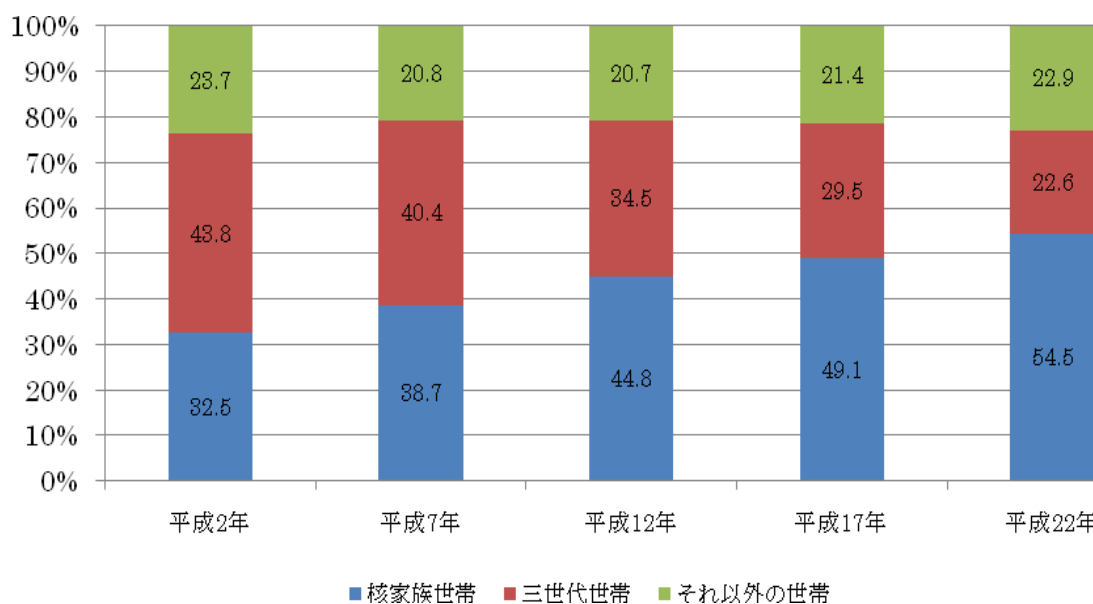
(国勢調査：各年10月1日現在)

【地域別乳幼児・児童人口の推移】



(国勢調査：各年10月1日現在)

【6歳未満の子どもがいる世帯の推移】



(国勢調査：各年10月1日現在)

第3節 高齢者の状況

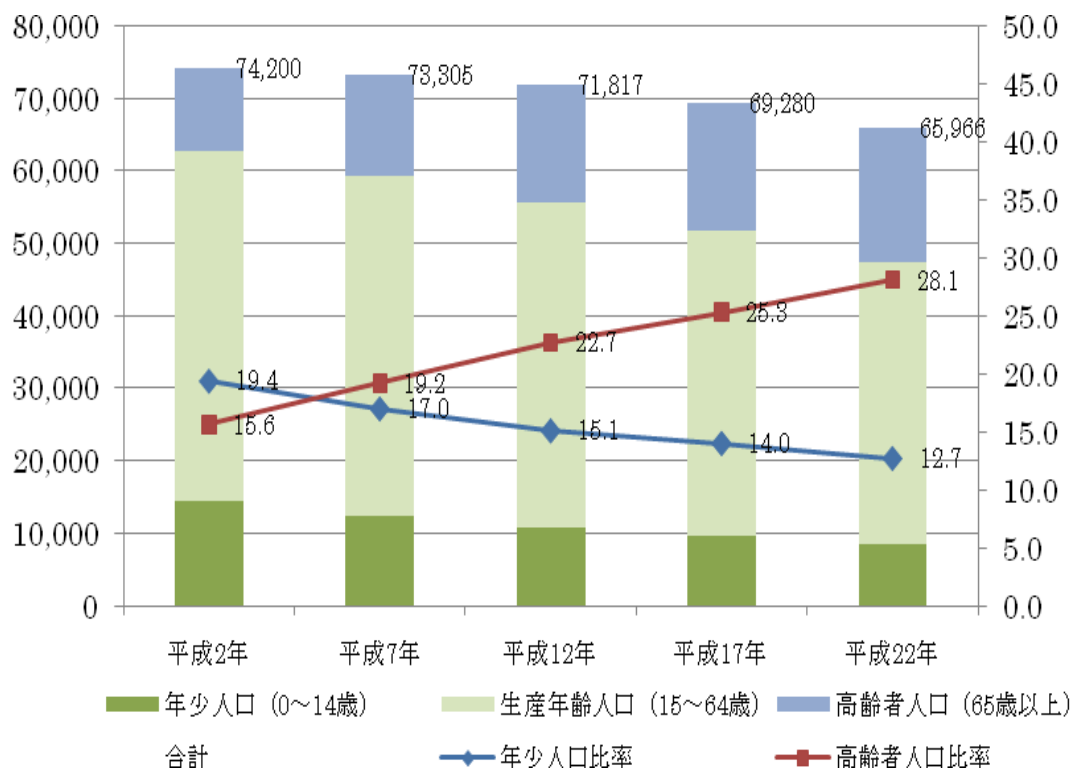
伊達市における65歳以上の高齢者人口の推移については、全人口に占める高齢者の人口比率が平成2年の15.6%から平成22年には28.1%へと2倍近くに激増している一方で、14歳以下の年少人口比率は平成2年の19.4%から平成22年には12.7%に激減しており、少子化とともに高齢化が急速に進行しています。

地域別の高齢化の進行状況については、平成22年における伊達市全体の高齢者の人口比率28.1%に対して、32.2%の霊山地域と32.0%の月舘地域は市内でも高齢化の進行している地域であり、地域人口の減少による過疎化と高齢化が同時に進行し、中山間地においては限界集落が発生しています。

伊達地域と保原地域は、市内でも比較的高齢者の人口比率が低い地域であり、地域人口も横ばい又は増加していますが、年少人口の比率が減少しているため、相対的に高齢化が進行しています。

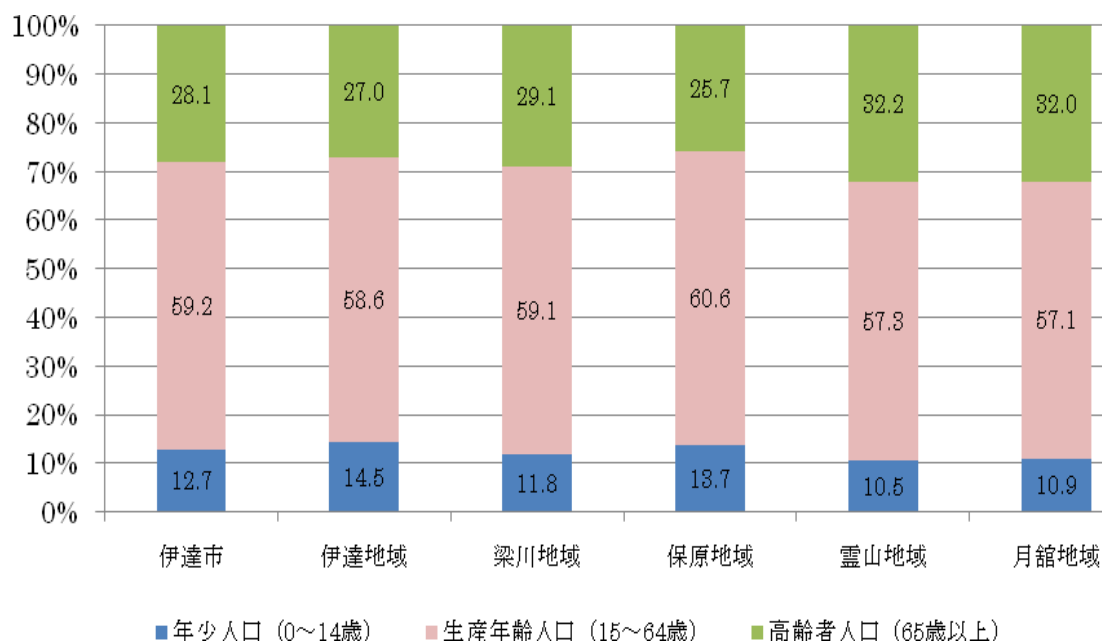
過去20年間の年齢層ごとの各地域人口の推移については、地域により多少の差異はありますが、急速な高齢化の進行は伊達市全域の課題となっています。

【年齢3区分別人口の推移】



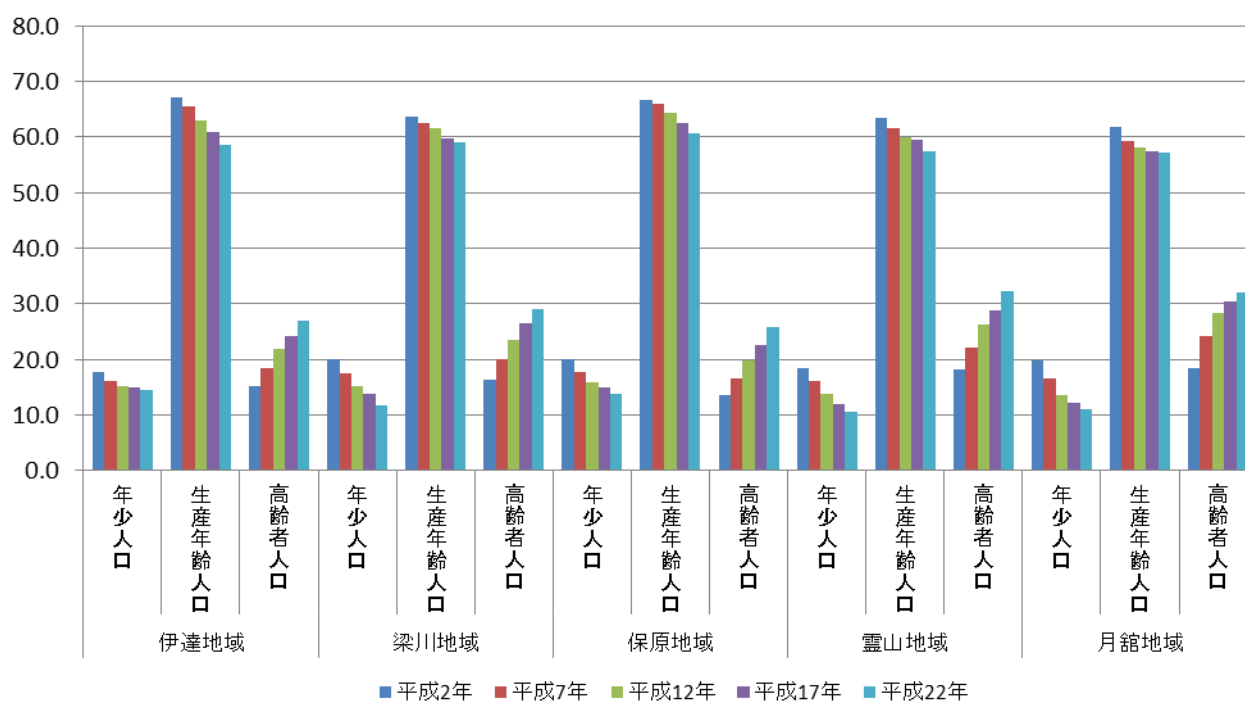
(国勢調査：平成22年10月1日現在 ※平成22年人口は年齢不詳を含まない数)

【地域別年齢3区分別人口構成比】



(国勢調査：平成22年10月1日現在)

【地域別年齢3区分別人口比の推移】



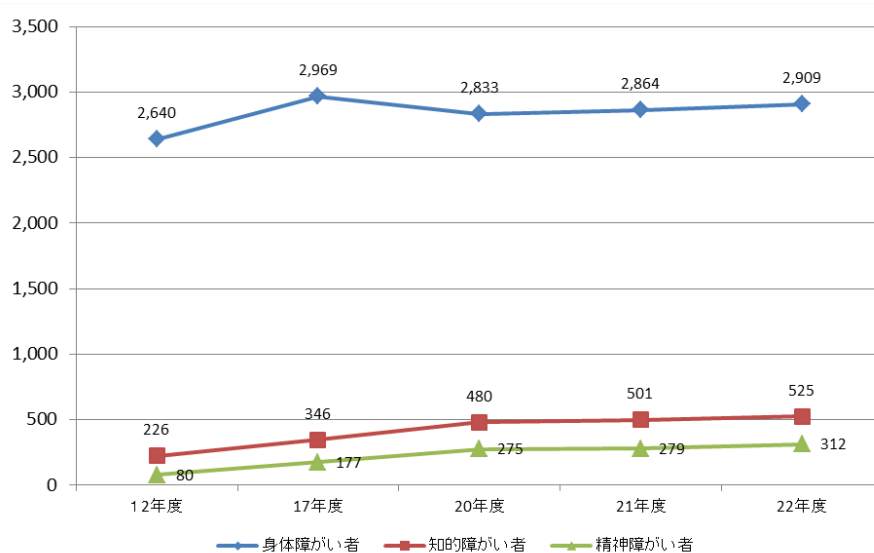
(国勢調査：各年10月1日現在)

第4節 障がい者の状況

伊達市における身体障害者手帳の保持者は、平成22年度末現在2,909人で、平成20年度末からの3年間で76人(1.2%)増加し、療育手帳の保持者は525人で120人(9.3%)の増加、精神保健福祉手帳の保持者は312人で97人(13.4%)増加しており、福島県全体の状況(身体1.8%増、療育6.2%増、精神18.5%増)と同様の傾向にあります。

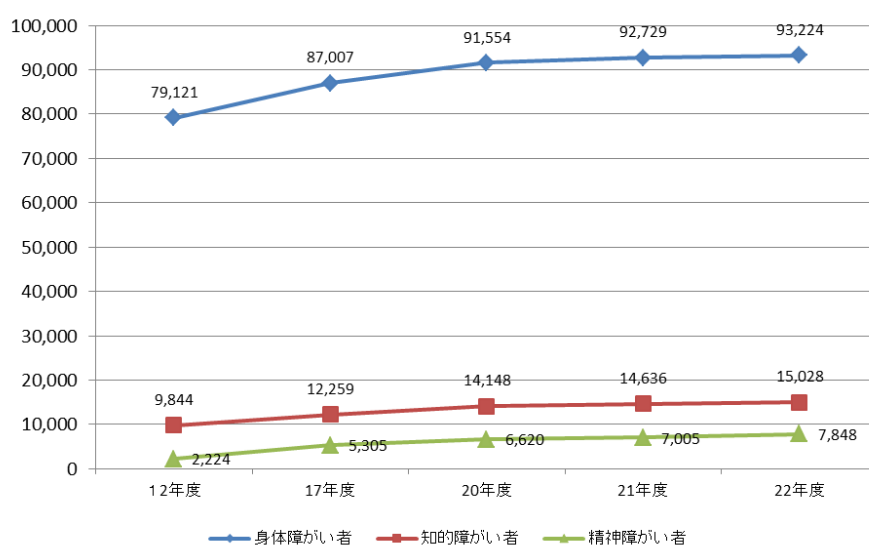
各手帳に共通する増加要因としては、障がい者福祉サービスを利用するために手帳を取得したケースが多いと考えられます。

【伊達市における障がい者数の推移】



(伊達市社会福祉課：各年4月1日現在)

【福島県における障がい者数の推移】

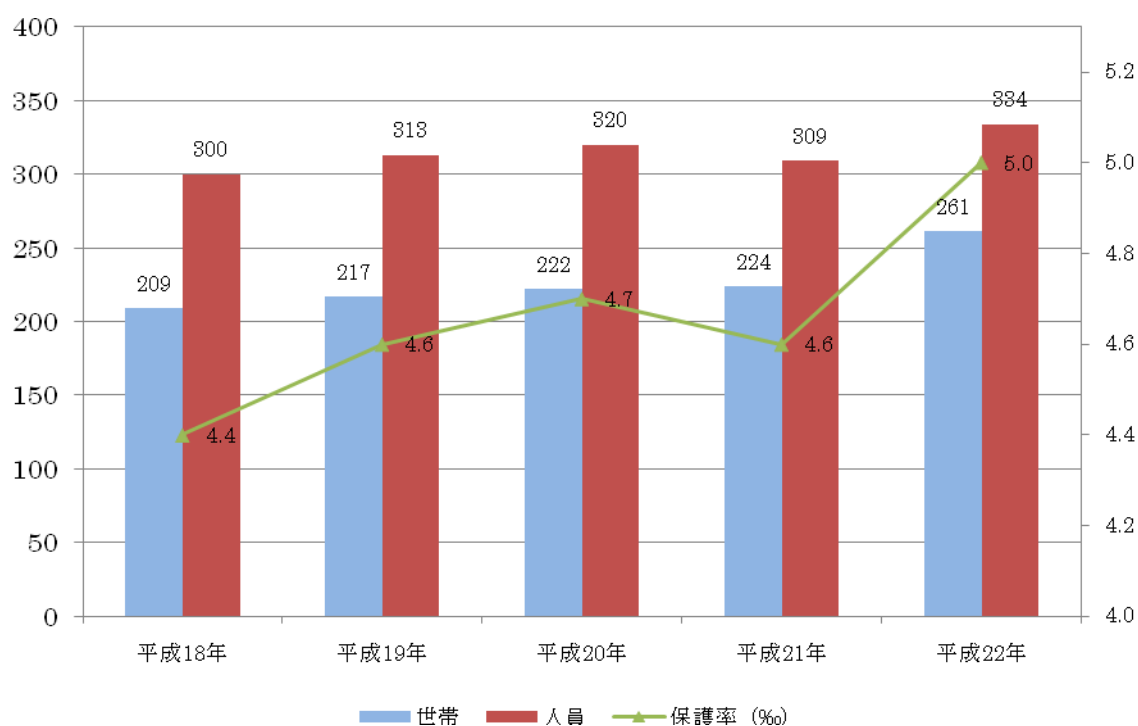


(伊達市社会福祉課：各年4月1日現在)

第5節 生活困窮者の状況

伊達市の生活困窮者状況については、平成18年4月1日現在300人（保護率4.4%）であった被保護者数が、平成22年4月1日現在334人（保護率5.0%）に増加しており、5箇年間で約1.1倍増加しています。

被保護者数の増加の要因としては、経済状況の悪化による失業者の増加や無年金者の増加などが考えられますが、東日本大震災の影響を受けて今後も増加が予想されます。



（伊達市社会福祉課：各年4月1日現在）

【参考】

平成23年4月1日現在、被保護者数347人（保護率5.17%）

平成24年1月1日現在、被保護者数349人（保護率5.28%）

第6節 地域福祉活動の状況

伊達市の民生委員児童委員は、平成22年12月1日の一斉改選により霊山方部及び月舘方部がそれぞれ1人減員となり、合計171人（うち主任児童委員12人）の定数です。平成24年3月1日現在、定数どおりの民生委員児童委員171人が厚生労働大臣から委嘱され、地域福祉の中核として活動しています。

また、民生委員児童委員活動の円滑な職務遂行を図るため、伊達市の5方部ごとに「民生委員協議会」を組織し、さらに、5方部の「民生委員協議会」により構成する「伊達市民生委員連絡協議会」が、伊達市全域における民生委員児童委員活動の連絡と調整などを行っています。

地域包括支援センターは、伊達市に4事業所を設置し、地域全体における総合相談支援業務、介護予防ケアマネジメント業務、権利擁護業務、包括的・継続的マネジメントの支援業務を実施しています。

【民生委員児童委員定数】

協議会名称	民生委員児童委員数	うち主任児童委員数
伊達方部民生委員協議会	25人	2人
梁川方部民生委員協議会	53人	3人
保原方部民生委員協議会	50人	3人
霊山方部民生委員協議会	27人	2人
月舘方部民生委員協議会	16人	2人
計	171人	12人

（平成22年12月1日現在）

【地域包括支援センター】

担当圏域	名称
伊達地域	伊達地域包括支援センター
梁川地域	梁川地域包括支援センター
保原地域	保原地域包括支援センター
霊山・月舘地域	霊山・月舘地域包括支援センター
	【同センター出張窓口】

地域の福祉課題の解決や福祉のまちづくりの実現のために、地域に根ざした福祉活動を展開する地域福祉団体として、伊達地域において13の福祉会、梁川地域において8つの地区社会福祉協議会、月舘地域において1つの福祉会が活動しています。

そのほか、伊達市内で活動するボランティア団体は42団体、NPO法人は14法人、その他の市民活動団体は11団体です。

【地域福祉団体】

地域	地域福祉団体の名称
伊達地域	駅前住民福祉会
	田町むつみ会
	ボランティアやくし
	北やわらぎ福祉会
	長岡桃の実福祉会
	生協団地福祉会
	東町あぶくま福祉会
	ながくら会
	志和田第二町内福祉会
	南堀福祉会
	北二町内福祉会
	みなみ福祉会
	上ヶ戸福祉会
梁川地域	梁川地区社会福祉協議会
	栗野地区社会福祉協議会
	堰本地区社会福祉協議会
	白根地区社会福祉協議会
	山舟生地区社会福祉協議会
	富野地区社会福祉協議会
	五十沢地区社会福祉協議会
	東大枝地区社会福祉協議会
月舘地域	下手渡地区福祉会
合計	22 団体

(平成24年3月1日現在)

【ボランティア団体】

地域	団体名
伊達	ボランティアだて
	ボランティアかすみ草
	わいわいサンデー倶楽部
	ボランティアB & G 倶楽部
	傾聴ボランティアぽぽ
	おはなしバスケット
	大河内由美子&フラメイツだて
	傾聴ボランティア イレブン
	地域サークル だて
	手話サークル「さくら」
梁川	梁川町ボランティアひろせ
	あさひ会
	梁川子育て支援協議会
	ボランティア コスモス会
	調理ボラ ザ・さくら
	耳話コミュニケーションズ
	にいにいグループ
	梁川町読書会連絡協議会
ボランティア好友会	
保原	手話サークルもみじ
	調理ボランティアサークル「クック」
	フィールアニマル
	福祉レクリエーションボランティア ももひめ隊
	傾聴ボランティア「なかよし」
	ボランティア 二六
	あゆみの会
霊山	スマイルハート・りょうぜん
	新舞踊吾妻流 民謡茶臼会
	スポーツ民謡 R虹の会
	ほほえみの会
	エンジェル
	料理ボランティア「結」
月舘	やまゆり
小計	33 団体

【赤十字奉仕団・J A伊達みらいボランティア】

赤十字奉仕団	伊達町赤十字奉仕団
	梁川町赤十字奉仕団
	保原町赤十字奉仕団
	霊山町赤十字奉仕団
	月舘町赤十字奉仕団
J A伊達みらい	ふれ愛グループすみれ会
	ふれ愛グループつくし会
	ふれ愛グループたんぽぽの会
	ふれ愛グループゆりの会
計	42 団体

(平成 23 年 11 月 1 日現在)

【NPO法人】

地域	法人名
伊達	ふれあいの郷だて
	伊達ウズベキスタン農業交流協会
梁川	ひろせ
	梁川町歴史文化財保存協会
	県北総合メンテナンス
保原	在宅介護支援ネットワークおりおりの会
	ターナー会
	夢ネットワーク
	みんなの広場
	すまいる
	ボネール
	総合体操クラブ Jewel
環境ワーキンググループ	
霊山	りょうぜん里山がっこう
計	14 法人

(平成 24 年 3 月 14 日現在)

(伊達市社会福祉課調べ)

【市民活動団体（NPO法人、福祉ボランティアを除く）】

地域	団体名
伊達	伊達町国際交流協会
	駅前4町内会連絡協議会
	まごころ会
	エコクラブだて
保原	教育ワーキンググループ
	福祉ワーキンググループ
	あんちゃんず
	子育てDATE ネットぽれ☆ぽれ
霊山	わくわく遊創塾
	広瀬川に鮭をもどす会霊山協力会
月舘	つきだて自然倶楽部
計	11 団体

(平成 23 年 11 月 1 日現在)

第7節 地域の特徴と現状

1 伊達地域

(1) 地域の特徴

伊達地域は、伊達市の西部に位置しており、地域内を国道4号線と国道399号線が走り、JR東北本線の伊達駅が福島市や仙台市方面への通勤通学の拠点となっています。

伊達地域の人口は11,193人で、伊達市人口の17.0%を占めており、年少人口(0～14歳)の占める割合は市内で最も高い14.5%で、高齢者人口(65歳以上)の占める割合は市内で2番目に低い27.0%であり、1世帯当たりの人員は市内で最も少ない3.0人です。

(2) 地域の現状

普段の近所づきあいの状況は、「顔を合わせればあいさつをする」人が最も多く、「会えば立ち話をする」人を合わせると、8割近くの人があいさつ程度の交流をしています。しかし、「お互いの家を行き来する」人は1割半ばで市内で最も低く、近所づきあいの希薄化傾向が高い地域です。

近所づきあいに対しては、半数以上の人「親しく相談したり助け合ったりするのは当然」と考え、3割弱の人は「わずらわしいが必要」と考えており、多くのひとが必要性を感じていますが、考え方に若干の違いがあります。

「地域の行事や活動に参加したことがない」人は約1割おりますが、一斉清掃やお祭り以外では、子ども会行事や小中学校行事に参加する人が多い地域です。

地域社会の役割については、緊急事態が起きたときの対応や防災・防犯などの日頃の協力に対して、高い期待を寄せています。

★地域の特徴にみる今後の取り組み★

伊達地域は、面積が伊達市全体の3.5%程度と狭く、交通の便もよいことから地域活動の展開が比較的容易に進めやすい特徴を持っています。

地域住民同士の交流による信頼感を育み、地域福祉会などの地域活動の充実に取り組みます。

2 梁川地域

(1) 地域の特徴

梁川地域は、伊達市の北部に位置して宮城県に接しており、地域内を阿武隈急

行鉄道と国道 349 号線が走り、中心部には住宅地が、郊外には中山間地帯が広がっている地域です。

梁川地域の人口は 18,749 人で、伊達市人口の 28.4% を占めており、年少人口（0～14 歳）の占める割合は 11.8%、高齢者人口（65 歳以上）の占める割合は 29.1% で市内でも平均的な地域であり、1 世帯当たりの人員は市内で 2 番目に多い 3.3 人です。

（2）地域の現状

普段の近所づきあいの状況は、「顔を合わせればあいさつをする」人が最も多く、「会えば立ち話をする」人を合わせると、約 7 割の人があいさつ程度の交流をしています。

近所づきあいに対しては、6 割弱の人が「親しく相談したり助け合ったりするのは当然」と考え、2 割以上の人は「わずらわしいが必要」と考えており、多くの人が必要性を感じています。

「地域の行事や活動に参加したことがない」人は 1 割未満で市内で最も低く、一斉清掃や資源回収、消防団・防災訓練といった行事に参加する人が多く、自然環境や防災に対する意識が高い地域です。

地域社会の役割については、緊急事態が起きたときの対応や防災・防犯などの日頃の協力、子どもや高齢者のお世話等の助け合いに対して、高い期待を寄せています。

★地域の特徴にみる今後の取り組み★

梁川地域は、霊山地域に次いで伊達市内で 2 番目の面積を有し、大きく中心部の市街地と周辺部の中山間地域の 2 つに分かれた特徴を持っています。

地域の活動拠点（施設）を利用し、地域住民協働によるボランティアや地域活動の推進に取り組みます。

3 保原地域

（1）地域の特色

保原地域は、伊達市の中部に位置しており、地域内を阿武隈急行鉄道や国道 349 号線、国道 399 号線が走り、市役所の本庁舎がある市の中核地域です。

保原地域の人口は市内で最も多い 23,654 人で、伊達市人口の 35.8% を占めており、年少人口（0～14 歳）の占める割合は市内で 2 番目に高い 13.7% で、高齢者人口（65 歳以上）の占める割合は市内で最も低い 25.7% であり、1 世帯当たりの人員は市内でも平均的な 3.1 です。

（2）地域の現状

普段の近所づきあいの状況は、「顔を合わせればあいさつをする」人が最も多く、

「会えば立ち話をする」人を合わせると、7割以上の人があいさつ程度の交流をしています。

近所づきあいに対しては、約5割の人が「親しく相談したり助け合ったりするのは当然」と考え、3割弱の人は「わずらわしいが必要」と考えており、多くの人が必要性を感じています。

地域の行事や活動に対する参加意識が高く、一斉清掃やお祭り以外では、地区運動会・スポーツ大会や小中学校行事、子ども会行事などの子どもが参加する行事に参加する人が多い地域です。

地域社会の役割については、緊急事態が起きたときの対応や防災・防犯などの日頃の協力に対して、高い期待を寄せています。

★地域の特徴にみる今後の取り組み★

保原地域は、伊達市で最大の人口を有し、市役所（本庁）も置かれた市の中心であり、市内でも子どもの数が多く高齢化率も比較的低い特徴を持っています。地域の行事やサロンなど通じて、子育て世代が地域活動に参画できるように、地域リーダーの育成とボランティア活動の促進に取り組みます。

4 霊山地域

(1) 地域の特徴

霊山地域は、伊達市の中部に位置しており、地域内を国道115号線と国道399号線が走り、阿武隈山系の北端に位置する丘陵地帯です。

霊山地域の人口は8,443人で、伊達市人口の12.8%を占めており、年少人口（0～14歳）の占める割合は市内で最も低い10.5%で、高齢者人口（65歳以上）の占める割合も市内で最も高い32.2%であり、1世帯当たりの人員は市内でも平均的な3.4です。

(2) 地域の現状

普段の近所づきあいの状況は、「お互いの家を行き来する」人は約3割で市内で最も多く、「顔を合わせればあいさつをする」人と「会えば立ち話をする」人を合わせると9割以上で、地域内の親交が非常に高い地域です。

近所づきあいに対しては、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然」と考えている人が6割以上で、市内で最も高い地域意識を持っています。

地域の行事や活動に対する参加意識が高く、お祭りへの参加意識が一斉清掃への参加意識と同じぐらいに高いことが特徴的な地域です。

地域社会の役割については、緊急事態が起きたときの対応や防災・防犯などの日頃の協力、子どもや高齢者のお世話等の助け合いに対して、高い期待を寄せています。

★地域の特徴にみる今後の取り組み★

霊山地域は、伊達市で最大の面積を有し、中山間地域で集落が点在して高齢化率も高いながら、住民同士の助け合いなど地域の機能が健在という特徴を持っています。

地域リーダーの育成や地域サロンの創出を図り、高齢者の経験を活かした地域住民協働による交流活動の促進に取り組みます。

5 月舘地域

(1) 地域の特徴

月舘地域は、伊達市の南部に位置しており、地域内を国道 349 号線と国道 399 号線が走り、阿武隈山系の北端に位置する丘陵地帯です。

月舘地域の人口は市内で最も少ない 3,988 人で、伊達市人口の 6.0%を占めており、年少人口（0～14 歳）の占める割合は市内で 2 番目に低い 10.9%で、高齢者人口（65 歳以上）の占める割合も市内で 2 番目に低い 32.0%であり、1 世帯当たりの人員は市内で最も多い 3.4 人です。

(2) 地域の現状

普段の近所づきあいの状況は、「お互いの家を行き来する」人は 2 割で市内で 2 番目に多く、「顔を合わせればあいさつをする」人と「会えば立ち話をする」人を合わせると 9 割以上で、地域内の親交がとても高い地域です。

近所づきあいに対しては、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然」と考えている人が約 6 割で、市内で 2 番目に地域意識が高い地域です。

地域の行事や活動に対する参加意識が高く、一斉清掃やお祭り、地区運動会・スポーツ大会に参加する人が多い地域です。

地域社会の役割については、緊急事態が起きたときの対応や防災・防犯などの日頃の協力、子どもや高齢者のお世話等の助け合いに対して、高い期待を寄せています。

★地域の特徴にみる今後の取り組み★

月舘地域は、中山間地域で集落が点在して高齢化率が高いながら、住民同士の助け合いなど地域の機能が健在という特徴を持っています。

高齢者が若い世代と世代間コミュニケーションを図り、地域住民協働による交流活動の促進に取り組みます。

第8節 社会福祉協議会の状況

「伊達市社会福祉協議会」は、伊達市における地域福祉の中核組織であり、この「伊達市地域福祉計画」と表裏一体の「伊達市地域福祉活動計画」の活動主体でもあります。本所のほか、各地域に支所が置かれています。

【伊達市社会福祉協議会本所・各支所の所在地】

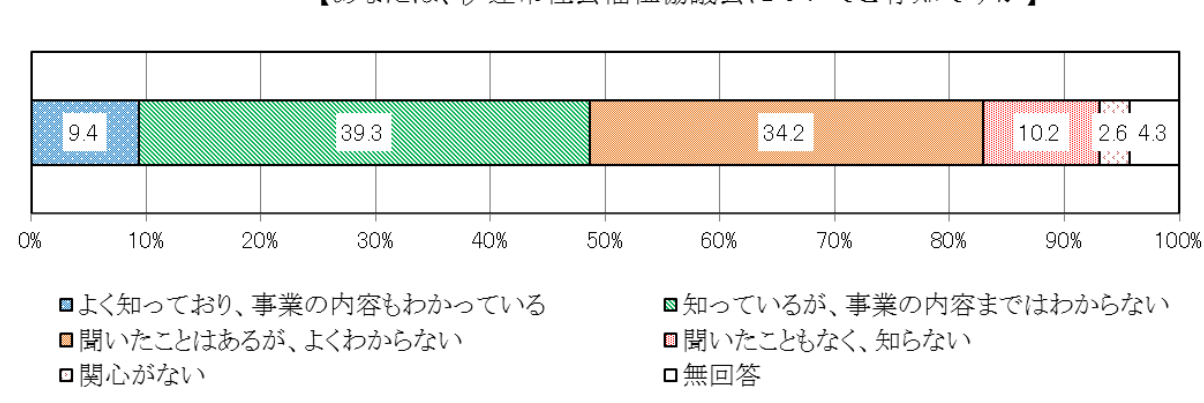
名 称		所 在 地	電話番号
社会福祉法人 伊達市社会福祉協議会		保原町字宮下 111 番地 2	024-576-4050
各 支 所	伊達支所	箱崎字川端 7 番地	024-551-2139
	梁川支所	梁川町字元陣内 1 番地 2	024-577-7171
	保原支所	保原町字宮下 111 番地 2	024-574-3211
	霊山支所	霊山町掛田字町田 14 番地 5	024-586-3463
	月舘支所	月舘町月舘字関ノ下 12 番地 1	024-571-1406

アンケート調査結果によると、伊達市社会福祉協議会について約半数の人が「知っている」と答えている一方で、「よくわからない・知らない・関心がない」と答えた人が約半数を占めています。

社会福祉協議会について「よくわからない」と答えた人が多い理由としては、社会福祉協議会がボランティアセンターであったり、さまざまな事業を展開し、いろいろな顔を持っているという面があるためであると思われます。

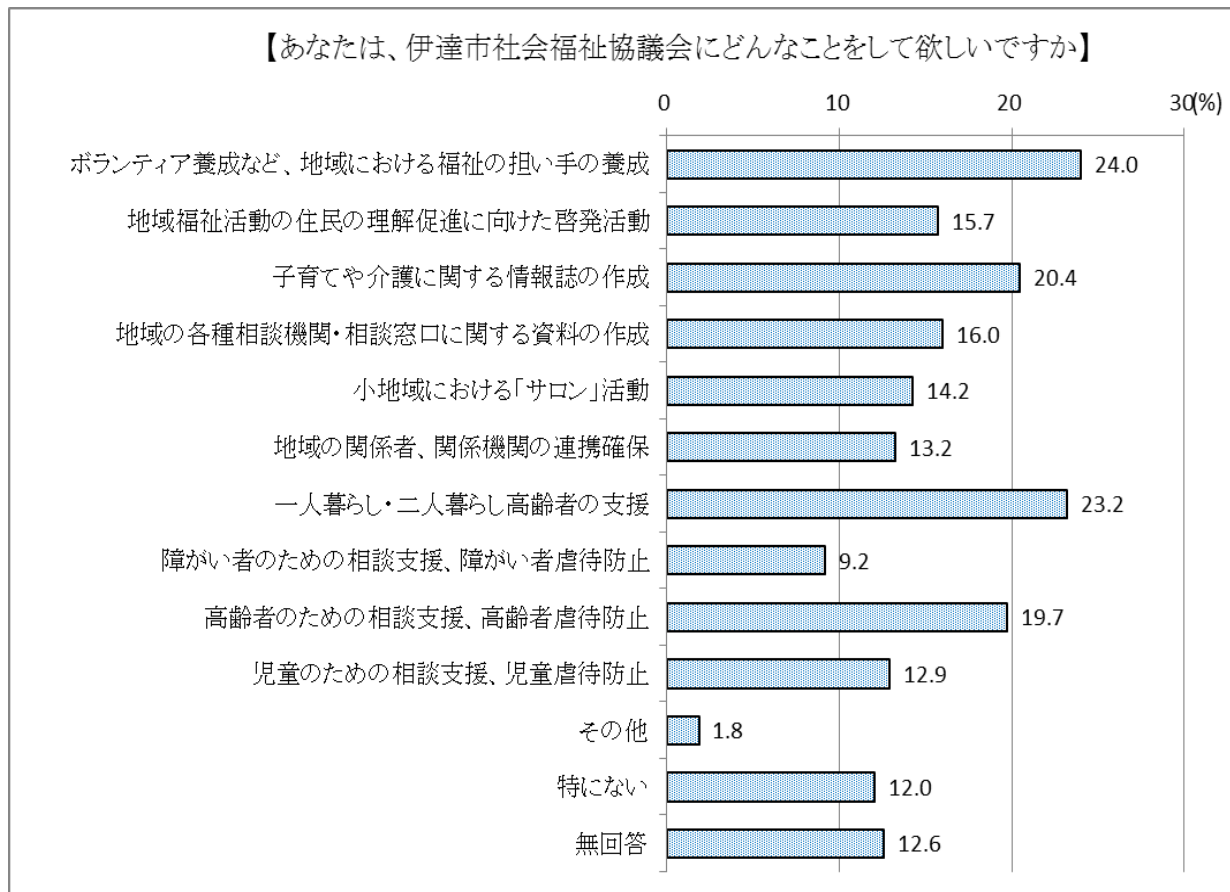
また、社会福祉協議会と関わりを持つ方々や、社会福祉協議会が行なう福祉サービスの対象者が、限定される傾向にあることも影響していると思われます。

【あなたは、伊達市社会福祉協議会についてご存知ですか】



社会福祉協議会に対する要望については、「ボランティア養成など地域における福祉の担い手の養成」が最も多く、「一人暮らし・二人暮らし高齢者の支援」が2番目に多い要望です。

このことから、人口減少と高齢化が進行している中で、社会福祉協議会が地域や高齢者を支える担い手を育成することが求められています。



(アンケート調査より)

第9節 東日本大震災時の状況

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、伊達市においても大きな被害をもたらし、道路や橋梁、学校などの公共施設に多大な被害が出たほか、市民や事業所などの家屋も全壊、半壊などの被害を受け、また、市内の広範囲において停電、断水、ガソリン不足など、市民の日常生活に支障をきたしました。

また、東京電力福島第一原子力発電所事故は、伊達市にまで放射能による汚染地域を広げ、農作物の放射能汚染や風評被害をもたらし、霊山町石田地域のうち坂ノ上地区及び八木平地区、月舘町月舘地域のうち相葎地区、霊山町上小国地域及び下小国地域並びに保原町富成地域帯において、128世帯が特定避難勧奨地点に指定されるなど、市民の日常や健康を脅かす事態となりました。

市民が震災後に受けた支援については、断水や食料不足などがあったため、多くの人が「水、食料の提供」の支援を受けたと答えています。

一方、行なった支援については、「安否の確認」と答えた人が多く、次いで「水や食用の提供」、「日用品の提供」と答えており、民生委員などの地域の方々が支援を行いました。

震災後に困ったことについては、停電が全域に及んだ梁川地域や月舘地域では「電気」と答えた人が多く、一部の地域が停電した保原地域では「電気」と答えた人よりも「水」と答えた人が多い結果となっています。

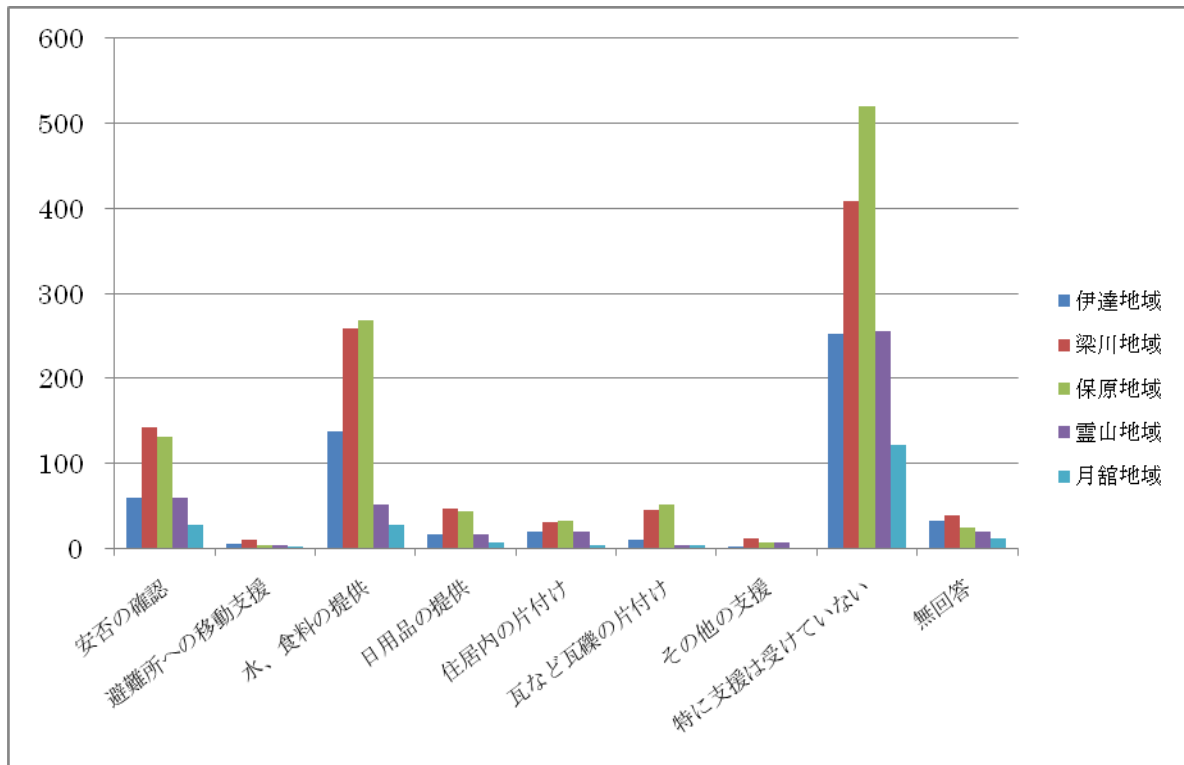
また、市内で一番広い面積を有する霊山地域では、「ガソリン」と答えた人が最も多い結果となっています。

現在困っていることについては、特産のあんぼ柿の出荷停止による農業被害が大きい梁川地域では、「農作物等の風評被害」と答えた人が多く、住家被害が多かった保原地域では「住宅の補修、建築」と答えた人が多い結果となっています。

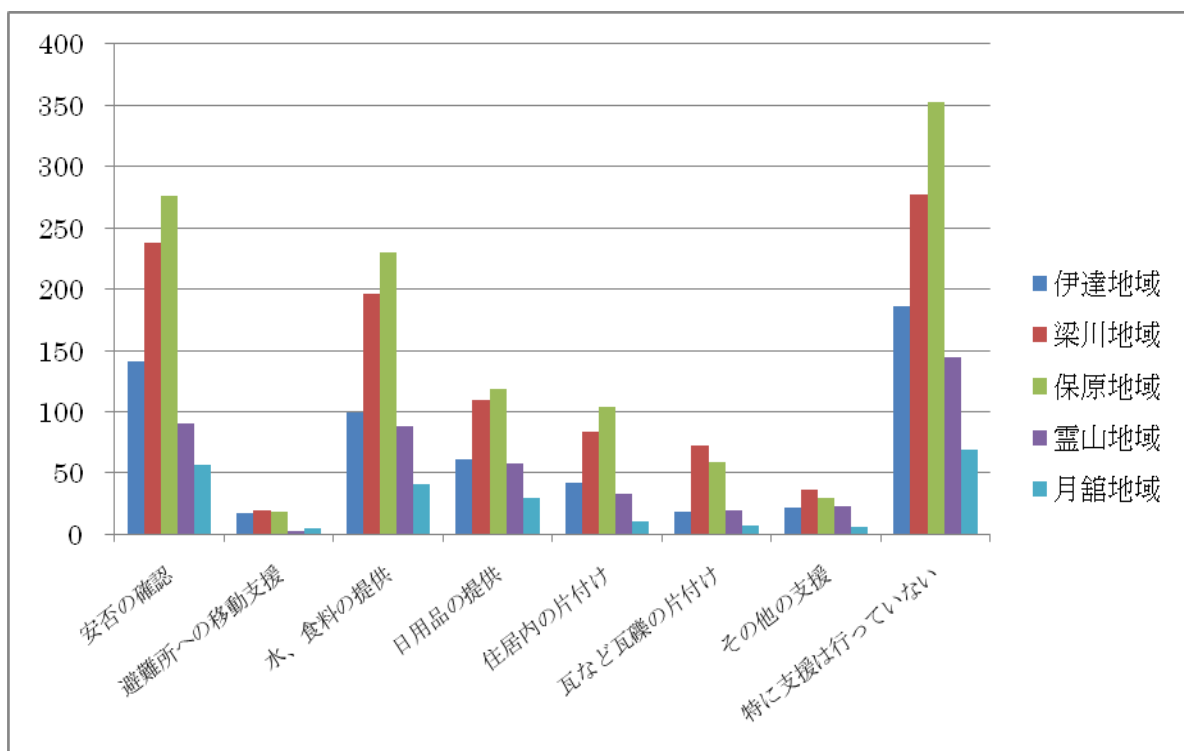
また、特定避難勧奨地点に指定されている世帯が多い霊山地域では、「住宅や宅地の除染」と答えた人が多く、地域により被害意識の違いが異なります。

地域での除染ボランティアへの参加については、約4割の人が「ぜひ参加する」又は「できれば参加する」、約2割の人が「なるべくなら参加しない」又は「参加したくない」と答えており、半数近くの人には除染に対して協力する意識を抱いておられますが、約3割の人が「わからない」と答えており、市民の放射能に対する不安や戸惑いが感じられます。

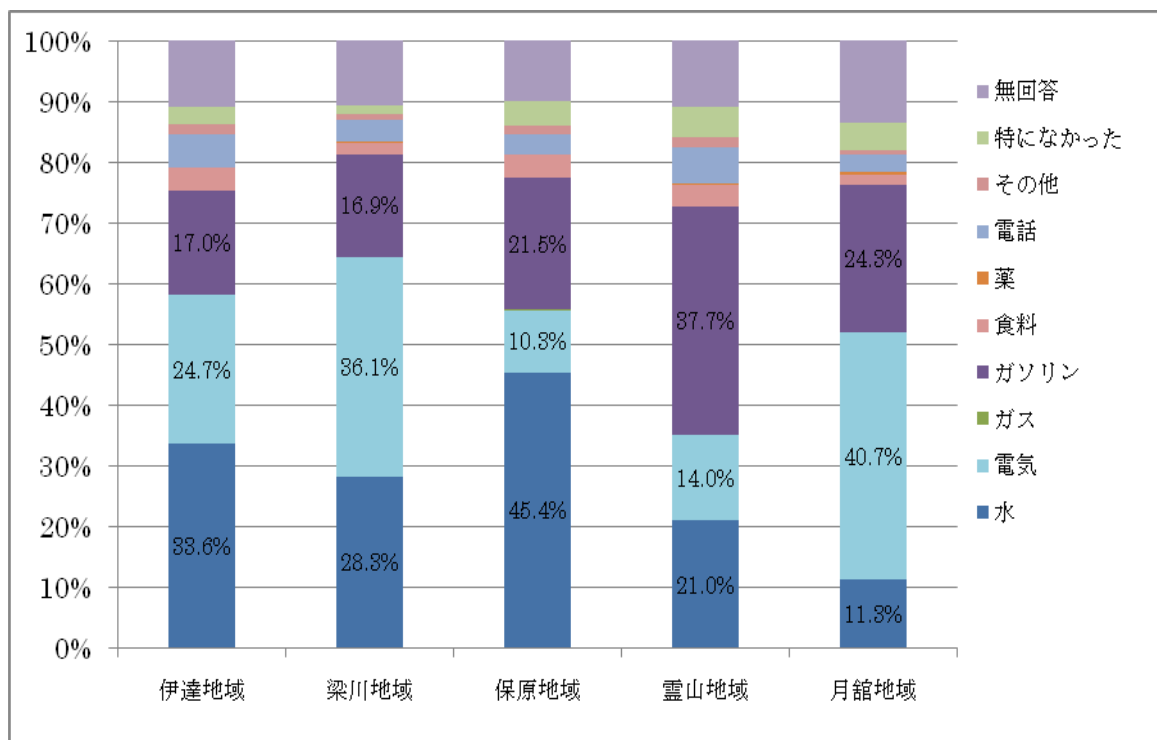
【アンケート：震災後にどんな支援を受けたか】



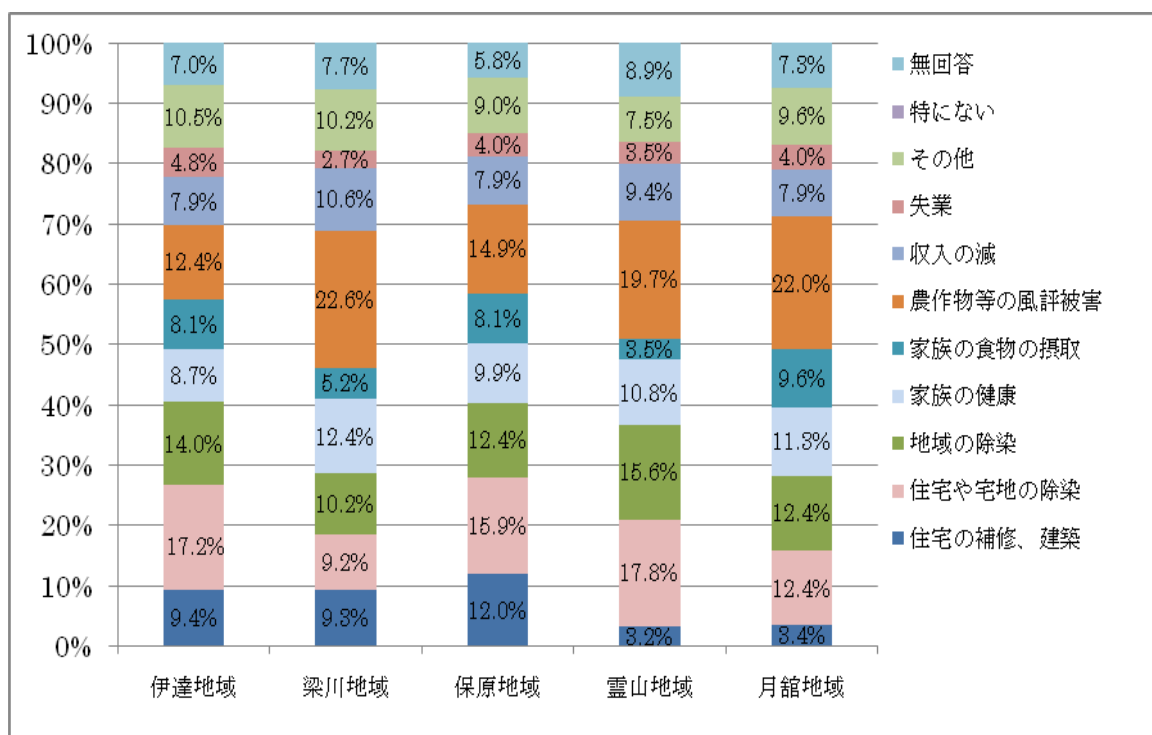
【アンケート：震災後にどんな支援を行ったか】



【アンケート：震災直後に一番困ったこと】



【アンケート：現在一番困っていること】



【アンケート：除染ボランティアに参加するか】

